

東京歯科大学同窓会会報

東京都千代田区神田
三崎町一ノ七

発行所

東京歯科大学同窓会

編集兼 北村勝衛
発行人
電話東京(301)3421(代)

来る七月十五日から

本年度夏期講習会開催

矯正、補綴、口腔外科、保存の四科目

お申込みは七月五日までに

前号において予告致しましたが、

昨年好評を博しました夏期講習会を、本年も母校並びに同窓会共催により来る七月十五日より二十七日までの二週間にわたって、矯正、補綴、口腔外科、保存の臨床科目について開催することになりました。

なお、講習会の実施要領の細目が決定致しましたので、その概略をお知らせ致します。

基礎科目の講習会についても考慮致しておりますが、本年度におきましてはとりあえず臨床科目を選びました。

多数同窓各位の御参加を期待致します。

なお、誠に勝手ではありますが、受講希望者が多数で、十分な講習目的を果すことが困難と思われる場合には募集を先着順で打切ることがあります。この点予め御了承をお願い致します。

一、期日並びに講習科目

七月十五日より七月二十七日まで
(但し日曜日を除き各科三日間)
毎日午前九時より午後四時まで

矯正科 七月十五日(月)より
十七日(水)まで

補綴科 七月十八日(木)より
二十日(土)まで

口腔外科 七月二十二日(月)より
二十四日(水)まで

保存科 七月二十五日(木)より
二十七日(土)まで

二、講習料

一科目五千円(なるべく受講申込みと同時に納め下さい)。

三、申込期日

七月五日まで

講習内容につきましては概略を第二頁に掲載してありますが、詳細は御申込み後に後日直接お送り致します。

講演会開催御通知 (昭和三十八年度)

左記により同窓会主催による講演会を開催致しますので、万障お繰合せの上御参加下さい。

日時 昭和三十八年六月二十三日(日) 午後一時〜四時半

場所 母校 講堂

「舌唇口蓋裂の治療」

高橋庄二郎 助教授

近年わが国では舌唇及び口蓋裂という一種の奇形が増加傾向にある。またサリドマイド奇形児の問題も生じ、最近では先天性奇形が一般の注目をひいている。私は昭和三十五年以來、大井、長尾両教授指導の下に、舌唇口蓋裂の治療に専念している。次の事項について、その概要を述べる。

(A) 最近わが教室を訪れた舌唇口蓋裂患者一八二名の分析

(B) 現在行っている舌唇第一次形成術、舌唇修正手術、舌唇外鼻修正手術、口唇移植術、口蓋裂形成術、咽頭弁移植術などの各種手術法

(C) 舌唇口蓋裂患者のリハビリテーションとくに口蓋裂患者の言語治療

田村八郎 助教授

全身麻酔の急速な進歩と相俟つて、外科手術は著しく発達した。本麻酔法は、歯科界にも導入され、現在、その応用法について研究中である。

特に本麻酔法は、悪性腫瘍手術に最も多く利用され、その麻酔具備を發揮している。本教室で行ったかかる症例の全身麻酔法についての研究結果を紹介したい。

一方この全身麻酔時の薬剤のショックに対する臨床医家としての救急処置法は大切なことであるのでそれについても述べたい。

「社会保険診療について」

A 誤りやすい諸点

B 正しい請求

井上久雄氏
重浦靖治氏

本講演会の席上、今回定年退職された母校の斎藤、溝上、近藤、高、渡辺の五教授及び三浦同窓会事務局長に対し、永年の御功績を顕彰すべく記念品贈呈式を催します。

おもな内容

講演会開催御通知

夏期講習会講習科目と内容

定年退職御挨拶

各地同窓会のうごき

クラス会だより

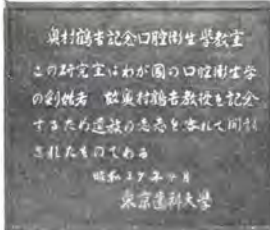
1

2

5

5

6



教室入口に掲げられた記念レリーフ
榎本美彦名誉会頭筆 今里竜生氏作

講習科目とその内容

矯正科

講師

齋藤 久 教名
山本義茂 教授
大内英男 助教授
瀬端正之 講師
椎名統治 講師
西口定彦 講師
山本 陽 講師
延島三男 講師
山口敏雄 講師
成瀬隆雄 講師
掛川和子 助手
伊藤宣昌 助手

期日並びに講習内容

七月十五日(月) 講義及び実習・矯正治療の準備について、症例分析について
七月十六日(火) 講義及び実習、(A)、(B)矯正装置について・(A)HS式(齋藤式)唇側装置および鑑査の基本について・(B)双線孤線装置
七月十七日(水) 実習、見学、講義
(A)別々に実習・臨床実習見学・矯正治療の予後について、
注 講習内容は別記の通りですが特に実習は装置について(A)、(B)の二組にわけて行いますので、お申込みの時に何れかを御指定下さい。

持参ねがう器械その他
東歯型矯正セット、金属ヤスリ、金冠鉄、マレット(実習材料は用意します。なお当日器械類は御購入可能です)

補綴科

講師

「ボーセレン・ジャケット・クラウンの調製」
北村勝衛 教授
関根 弘 助教授
阿部精孝 講師
石井 恒 助手
海洲馨一 助手
腰原 好 助手
溝上隆男 大学院生

期日並びに講習内容

七月十八日(木) 示説、交台歯形成
七月十九日(金) 示説及び実習、陶材製造・焼成・(高橋、全部築造)
七月二十日(土) 示説及び実習、既製陶歯前装のボーセレン・ジャケットクラウンの調製
持参ねがう器械その他
ダイヤモンドポイントまたはカーボランタンポイント、バー、ラバーボール、彫刻刀、石膏スパンチュラ、ワックススパンチュラ、歯科用ピンセット、抜去歯牙(二歯以上)上顎中切歯または犬歯)作業用白衣
なお、マトリックス用白金箔、陶材等の実費(一〇〇〇円〜一五〇〇円)を講習料の他に頂きます。

口腔外科
大井 清 教授

保存科

講師

長尾喜景 教授
高橋庄二郎 助教授
田村八郎 助教授
中久喜喬 助教授
倉繁準之助 講師
大森清弘 講師
鈴木和男 講師
氏家英峰 講師
高北義彦 講師
成毛二郎 講師
吉田滋美 講師

期日並びに講習内容

七月二十二日(月) 講義、最近の化学療法と抗生物質療法・顎関節症の診断と処置・救急処置(脳貧血ショック、出血など)・顎骨折の診断と処置(実習を含む)
七月二十三日(火) 示説、各種手術の解説・各種手術の供覧
七月二十四日(水) 示説及び講義、X線撮影法の実際(口内法、口外法)・X線フィルム読方・新しい局所麻酔薬の優劣・社会保険と口腔外科・質疑応答
持参ねがう品
白衣、マスク

関根永滋 教授
渡辺富士夫 助教授
森本 優 助教授
町田幸雄 助教授
高橋一祐 講師
大曾根正史 助手
(その他教室員)

期日並びに講習内容

七月二十五日(木) 講義、各種切削法による窩洞形成時の歯髄傷害とその対策・保険診療と充填。

七月二十六日(金) 示説及び実習、アマルガムの理工学的性状・アマルガム充填技法(患者によるデモを含む)・抜去歯牙、石膏模型による隔壁法の実習。

七月二十七日(土) 示説、即時重合レジン(の理工学的性状・即時重合レジンの充填技法(患者によるデモを含む)・アマルガム、即時重合

合レジンの研磨法(患者によるデモを含む)
持参ねがう器械その他
白衣、抜去歯牙(上顎前歯、小白歯、大白歯各二歯計六歯)、切削用器械(但しエンジン、ハンドピスを除く)、
模型は当方にて用意します。

三崎針郎教授国外視察に出発する

去る五月四日(土)、三崎教授は母校の命により歐洲諸国並びに米国の歯科教育、研究の実情視察のため、午後九時半、羽田空港よりストックホルムに向われた。約六カ月後の十一月下旬に帰朝される予定。

近藤三郎教授記念会盛會裡に終る

今般母校の定年制施行と共に、惜しまれつつ勇退されることとなった近藤三郎教授の記念会は、去る四月二十一日東京新橋第一ホテルにおいて、各方面より一六〇名の参加者をえて、きわめて盛大に行われた。
会の前半は、記念品贈呈式と各代表の送辞および近藤教授の思い出話などで終り、つづいて、故花沢鼎教授未亡人常子夫人の音頭で乾杯を行ない記念宴会に入った。母校在職五十余年、誰にも敬愛された名教授の会にふさわしく、会は終始なごやかに進められ、八時終会、近藤教授は



お知らせ

校歌の前奏譜、合唱譜の作曲について予てから作曲者の山田耕作氏に依頼してありましたが、この程完成同氏指揮、東芝コンサートオーケストラ、二期会合唱団によるレコード吹込みが終了致しました。これを記念に本レコードを大学及び大学院建設資金募集に応募された同窓並びに関係各位に贈呈致すべく目下準備中であります。なお、希望者には実費(五百円別)に包装送料五〇円にて頒布致しますので本学庶務課にお申込み下さい。

旧学位令による昭和三十一年より 四年間の学位受領者について(完)

教授 米 沢 和 一

今回は題名の昭和三十一年より三十四年迄に学位を得た専門学校及び大学出身の三十四名とその他の同窓八名を加えた三十二名の名簿を掲げて、この稿を終りたい。うち逝去者(●印)五名で、今期学術会議第七部歯学有権者(○印)は三三六名である。従って生存者三一四名中の有権者は七五%であり、昭和三十一年迄の四二%、最終の三五%、六年の平均七三%に比し最高率を示している。かくて同窓で旧制医博の学位を得た者は、本紙上過去三回連記のものと合せて計八三三名となり、逝去者三十四名差引き生存者七八九名中の有権者は五一六名で、その率六六%となり、母校同窓並に縁故者中の有権者総数九百名には、この五一六名が当然含まれる訳で、その比率は五七%である。

明治四十一年母校専門学校卒から昭和三十年卒迄の出身者計六、二九三名であるが、この第一期生より四十四年までの九十四名の卒業生中有学位者は三名(三%)で、大正元年よりは年間百名前後の卒業生に対しほぼ同率に出ている。専門学校三年半制は大正十年迄つづいて、これが十二年になると四年制となり卒業生数は百数十名に増加し、有学位者も年間十名を越えるようになったが、昭和六年迄の専門学校卒業生二、四一〇名中の有学位者は僅々一二四名

(五%)といった希少なものである。これが昭和七年卒の私のクラスは一五〇名中二十一名(一四%)の有学位者にハネ上って、この高率を延々昭和十六年四月卒迄維持出来た理由とは、卒論提出を義務づけされたためと思う。昭和十六年十二月に、戦時の特例たる、繰上げ卒業で三年半制の月足らず組が始めて出て、有学位者率は一進一退し乍らも、終戦時卒組は一九%を示した。昭和二十二年卒組から再び四年制に戻ったが、一八三名中、実に四十五名(二五%)の大量有学位者を出した。この組は三年生の時が終戦時であり、勉強も録々出来なかったことが、却って戦後向学心をそそり最高率の榮譽を荷ったものと考えられる。これをピークとして二三、四年卒組が二二二%を示している。ただし、二十五年の卒業生数は戦後最高の一九四名で三十九名(二〇%)の上位を示しているが、漸減して専門学校最後の二七七年卒組は一四%という、戦後最低率に下落した。三年制の旧制高校相対の母校大学予科出身組たる二八、二九、三〇年卒組は、百名以下という恵まれた少数精鋭主義的教育を受けたもので、始めての大学のブライドのせいもあってか平均二三%と有学位者も多いのであって、学外の山本博士の他、見明、坂田、関根、羽賀、佐藤(徹)、高添、恩田、石

川、博士等は現に母校の助教教授団の主流となっておられる。

思うに大正十年卒迄の各クラスは、堀江、矢崎、斎藤、福島、渡辺、溝上、高、杉山、大井教授など単に大学教授級数名だけが有学位者で、昭和六年卒まではその傾向を維持しつつも、年々僅かな卒業生の向学心上昇の跡が認められる。特に昭和二年卒組では一%も有学位者たる事実、北村、副島、の両教授、大久保、小林、両博士が級友に及ぼした直接、間接の影響と見てよいのであって、昭和四年卒組の一%もまた戸塚、今井、両教授、わけても藤正博士の愛級心の発露と考えられ、この両クラスは当時の花形と賞讃されてよい。これが前述の卒論提出の義務づけの影響で一躍一四%台に有学位者率が上昇し、その後一進一退しつつ、終戦時卒組の一%に及んだことは前述の通りであるが、昭和七年卒の松井、米沢、八年卒の長尾、山本、村瀬、九年卒の三崎、十年卒の木村、中村、十一年卒の加藤(孝)、加藤(孝)、十二年卒の竹内、磯原、十五年卒の酒井、十七年卒の上条、鶴養、原の諸教授は、母校内外の指導教授の花形であって、昭和五年母校卒の松宮、関根、両教授につづいて、揃って強將振りを発揮しておられる。そのクラスから研究指導者が出れば、同級生により刺激を与えて向学心をそそくことは昭和時代に入ってから著明な傾向であって、英雄崇拜主義がはびこった明治、大正時代の風潮とは大いに異なるところである。学外の研究行政機関の主宰者又

は実力者たりし、重浦8、佐藤9、高木10、松川11、岡本11、小山12、堤15、深田15、佐藤18、板倉8、9、徳植19、9、奥村20、9、片山20、9、三木20、9の諸博士の存在は、大正時代卒の向井(3)、池田(6)、栃原(7)、和田(8)、山村(9)、重浦(10)、大西(10)、久保田(14)、矢島(14)、松野(15)の諸博士共々大学教授とは同等の影響を級友に及ぼしていると思われる。尚母校内外の助教教授団の上層部として、坂本11、渡辺17、9、長谷川17、9、和田18、9、田村19、9、鈴木19、9、橋本19、9、高橋20、9、正木20、9の諸博士が活躍せられたのであり、戦後の田能22、西村22、中久喜23、大内24、森本24、川島25、河西25、鈴木26、黒須26の現役助教教授講師級に脈々として、学究心が引継がれて、昭和二十八年以降の歯大卒で学問の開花、結実がピークに達したものと考えられる。

特に大正時代卒の岡本、岩垣、正木、兵藤、岩沢の学外五教授の他、国立東京第二病院の佐々木27、国立療養所東京病院の佐藤11、国立武蔵療養所の木本7の諸博士は今も学界に活躍しておられる。その他の同窓の有学位者五十一名中、学外から母校へお迎えした金竹、伊藤、田村、上田、鈴木、の五教授と森下、佐藤、堤の三助教教授が含まれており、揃って基礎学担当者である。(市川病院省略)

以上、現存者を中心として述べてきたが、専門学校出身者外の佐藤、小野、生田、近藤の諸教授を除いては、花沢、奥村、遠藤、岡田、中川、西村、中井、弘田の諸教授は揃って良い指導者であられ、総て故人とな

られたことを付記する。又旧制医博計三四三六名を出身学校別に見ると東歯八三三、大歯六八一、日大歯六二一、※医歯五〇六、日歯四五二、※九歯二一七、城歯五五、両歯専計六二、検定その他一九、となる。

(※医学学校出身者を含む。)

○福島秀策(5)、岡田治清、○長谷川脩(以上10)、白須賀二郎(14)、○岩鶴俊男、藤井博(以上15)、安藤義一、○楠原不器郎、関野格郎、○瀬戸俊一、○山下又次郎(以上2)小宮山昌雄、○似島武雄、○畑孝肇、○山路千秋(以上3)、○安東猛、○秋尾榮、○小谷虎次郎、○高橋初太郎、○秋川福繁、○深沢一祐、○細野彦男(以上4)、○木村善利5、○大西延治、○河辺清治、○島田宗武(以上6)、○相場市良、○大場明徳、○木本信義、○熊野千太郎、佐藤直房、○関根友次、○田中勝雄、○中野三郎(以上7)、○葦沢悠、○清水玄龍、須藤秀夫、○中村栄次、○森志朗、○山口玄洋、○吉井三郎(以上8)、○安保正憲、飯島仁、○加藤久二、佐々木洋、○田中正業、○藤正模夫、○藤本敏雄、真下泰司(以上9)、市之川正二、市川宗光、○岡本伝、小林薫、○佐々良、○千寿誠、○西川利、弘山秀直(以上10)、○朝倉重美、板垣正太郎、○榎本越、○国本朝雄、花沢清(以上11)、○相田孝信、大平実、大和彦一、○川崎誠藏、川崎精一、○榊原修紀田郎、○末統寛、○鈴木信、○竹内光春、坪谷金信、○中山順弘(以上12)、●大

木忠雄、小木原英雄、○角野喜与太、○草柳喜一郎、○小林寛一、中村喜之助、○成田蔵己、○松本謙一、山本勉司(以上13)、浅野実、○伊藤博久、○江部易広、○菅野哲司、○酒井琢朗、○栗山武雄(以上14)、○岡村一夫、○加藤興嗣、○斎藤利世、○高橋郁夫、○野呂昭明、○榎久正、○吉峰 登、○吉井 久(以上15)、○相原健男、○入江政明、○榎本岩司、○小笠原光泰、○北村貴保、○小池千白、○鈴木勲夫、○花岡広、○兵働四郎、○堀内鎮夫、○本多宣章、○松本宜洞(以上16)、○石島公徳、○大島 稔、○木村亮治、○国島義郎、○小林与一、○佐久間五三男、○高橋勝哉、○林 富榮、○林芳雄、○松平邦夫(以上17)、○池田 清、○鶴森 弘、○大山栄一、○大野喜市、○坂 正義、○真保 弘、○島田恒夫、○鈴木秋雄、○鈴木耕一、○杉田長男、○外 三千介、○長谷川正康、○矢ヶ崎 康(以上18)、○板倉一民、○長内秀夫、○熊谷一義、○黒田政文、○小島薫正、○鈴木芳信、○鈴木基一、○田中武臣、○中嶋 賢、○松本直行、○吉岡達雄、○和田智雄(以上19)、○会山 真、○市川重彦、○飯田精一、○大川重保、○大村林木、○小寺八郎、○片山 宏、○菊地皓一、○城所 進、○鹿野善孝、○嶋村 晃、○関谷三郎、○山村八郎、○徳植 進、○沼田文治、○橋本京一、○渡辺信平(以上19)、○小野繁忠、○奥村晴一、○上脇英雄、○栗田春海、○九津見 侃、○久木留一広、○境野良一、○田崎 敏、○土屋 厚、○鶴岡清一、○橋本 元

○松原 学、○正木光児、○三木 洋、○山村武夫、○渡辺孝夫、(以上20)、○青木 進、○荒井賢一、○村嘉孝、○井上 篤、○小見 勇、○片田恒男、○神山二郎、○金子 信、○小谷泰造、○小森伴雄、○佐藤守、○酒田睦夫、○角倉銀夫、○田村 陽、○都筑 億、○板原 博、○戸辺三千男、○長安 清、○二階堂則彦、○西村正雄、○橋本慶一郎、○弘田仁哉、○松田正男、○山本 章、○山本一成(以上22)、○石井欣一、○市川博保、○岩沢正和、○海老原信、○河合 幹、○北村宗久、○西条征男、○佐藤勝也、○塩津榮一、○杉山浩一、○立原 健、○谷口富士雄、○館山諄一、○中川重俊、○成田嘉則、○中村 正、○野本種邦、○藤沢 曉美、○福岡 明、○松本幸一、○矢内良徳(以上23)、○明楽和雄、○大内英男、○太田 実、○小嶋 寛、○北村実雄、○駒橋 武、○坂井和雄、○島田 孝、○杉本是孝、○鈴木啓之、○武久 滋、○長東長雄、○長井義博、○新田義昌、○西尾宏英、○細川安徳、○帆足 望、○三島平左衛門、○村上忠正、○森本 優、○山口和夫、○和田周志、○渡辺聖一、○渡辺敏雄(以上24)、○天野 恵、○荒木 雅、○石和田 清、○石塚 武、○女川 清、○大山万夫、○小嶋幸夫、○長田 昇、○河江力男、○河西一秀、○小島文雄、○桜井和人、○斎藤孝夫、○白須賀美樹、○田崎久雄、○高橋華夫、○長田一哉、○平川光昭、○村上守正、○森内 護、○森田多賀雄、○森山徳長、○山口 昭、○山口 正、○芳村正雄、○吉岡 登(以上25)、○天野 聖造、○五十嵐完治、○大森直樹、○加藤植一、○片山 健、○黒須一夫、○鈴木和男、○田辺 明、○藤井神正、○松山茂樹、○安原英司、○山下正雄(以上26)、○生田博康、○柳田昭夫、○岡本 孝、○久保田英雄、○佐藤 寛、○杉田三男、○玉井秀昭、○橋口緯徳、○宮内孝雄、○渡部一雄(以上27)、○石塚達夫、○佐藤徹一郎、○坂田三弥、○桜井 峯夫、○莊 浩、○宝田 忠、○見明 清、○山本勝一(以上28)、○黒沢明雄、○田中誠禾、○高添一郎、○高山 恬、○高山基比古、○原田望成、○平岡理明、○丸島 勝、○依田麗正(以上29)、○秋月照松、○宇野昭二、○黒沢佐太郎、○鈴木 央、○堤 璋二、○徳光義明、○橋口 近義、○堀 泰昌(以上30その他)

前号学位記事訂正平岡心輝、大田芳樹10、を追加する(但し●松尾鉄之助。結局本文中の『同窓二二六名の有学位者中●印計二十八名、●印計八十八名で、生存者二八名中の四二%強に当る。』と訂正したい。また生田信保(●不要。福本 忍、玉井俊治、下原朝光、柏村 毅、杉山正彦、並木俊雄29、佐藤敏治(以上●必要)。卒業年訂正は、山崎謙3、佐保田 実7、伏見 浩13。かつ昭和三十五年有学位者に、○井上 真、○中条 弘8、○高橋一夫12、○村田良雄17.9を、三十六年組に、○柏井郁三郎を追加したい。

(米沢生)

急カーブを辿る需用量

↓
歯科用局所麻酔注

ネ ピ カ イ ン

改 正 価 格	1cc×25	¥480
	2cc×25	
	1cc×50	¥400
	2cc×50	¥480
	20ccバイアル	¥160

製造発売元

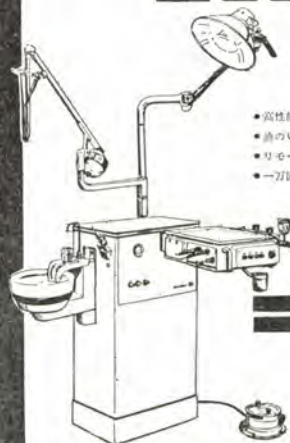
ネオ製薬株式会社

東京都渋谷区羽沢町130

新しい感覚の能率的なユニット

エアーゼット、コンプレッサー内蔵

Leo-II



- 高性能40万回転エアーゼット
- 油のいらぬ強力コンプレッサー
- リモートコントロールのストップ放水
- 一万回転アローエンゲル

¥495,000(税別)



森田製作所

森田歯科商店

東京・大塚・中野・有明・目黒・品川・横浜

このシステムについて
製品を直接見る下さい

定年退職御挨拶

高 達



昭和二十年九月
本学予科の開校に
遅れること三カ
月、同年十二月十
二日、東京歯科大学市川病院が開設
されたから早くも十七星霜は流れ、
ようやく病院としても内容を具備す
るに至りましたが、その間私共関係
者の歩いた道は決して平坦ではなか
ったと今更ながら十数年前の光景が
眼前に浮かび出てまいります。加う
るに、昭和三十年には原因不詳の出
火に第三病棟は焼失、また三十三年
には市川市二十年來の水魔に見舞わ
れ、全館床上浸水という文字通り水
火の責苦に噴まねながらも今日ある
を得ましたことは、全く同窓各位の
熱烈なる母校愛による御指導御援護
の賜でこの機会に衷心より御礼申し
上げる次第であります。

借越ながらこの上とも市川病院育成
発展に対して何かと御指導御援助を
念願しまして私の退職の御挨拶にか
えさせて頂きたいと存じます。尚、
退職後も当分の間、引きつづき市川
病院歯科に勤務中でありまして、医
局の発刺たる諸君とともに診療に従
事しながら最後の御奉公に病院の発
展を見守りたいと存じますので、将
来公私とも格別の御教導と御交誼を
御願ひ申し上げます。

略 歴

明治二十七年 福岡県出生
大正 八年 母校卒業
昭和 八年 朝鮮公立専門学校大
邱医学専門学校教授就任
昭和二十年 東京大学医学部より
学位を受く
昭和二十一年 母校市川病院勤務
昭和二十二年 母校教授就任
昭和二十四年 母校市川病院歯科部
長就任
(現住所) 千葉県市川市菅野六ノ
一九五〇

各地同窓会のうゝき

東三豊徳会

富める家の光る瓦や柿若葉 虚子
名鉄電車沿線国府駅から車で数分
の弘法山。
この山の中腹に国府温泉郷があ

る。
音羽川を渡れば、樹々の若葉が窓
迄迫っている。ここ温泉郷の音羽
が、東三豊徳会の定時総会会場であ
る。

去る五月三日、母校から病院長大
井教授御夫妻、地元愛知学院大歯学
部から、元母校教授近藤三郎、加藤
孝一(七星会)両教授をお迎えして
午後二時から開会した。

型の如く、曾田真一会長の遠来の
各先生の御来駕に謝意を表し、多数
会員の出席をよろこぶ旨の挨拶のあ
り、会計担当山本(弥)幹事の会計
報告がなされ、役員改選を計ったと



ころ、全員留任の声に、再度曾田会
長以下各幹事留任と決定。新入会員
尾崎氏(三十四年卒)の紹介、名簿
作製のこと等承認されて会議終了。
引続き懇親会に移ると会長挨拶が
あり、大井教授から、大学の近況殊
に定年制の確立、市川病院の建設に
ついて、過日その地鎮祭も、地元知
事、市長等著名人を招いて、盛大に
挙行し、着工いたしました。その資金面
については、尙一層同窓各位の理解

と協力を要望され、切角の御招待に
深謝する旨の挨拶があり、序いで、
近藤三郎教授からは、定年制第一号
で去る三月末母校を退職した。福島
県生れの私は、今日まで愛知県は全
然知らなかったが、故西村豊治先
生、只今の曾田先生といった、歯科
界の重鎮の生れたこの愛知県に、縁
あって世話になる運びとなった。駄
馬に鞭打って働く覚悟である。今後
とも御交誼を願うとの挨拶をいただ
く。

加藤孝一教授からは、漸次拡張し
つつある愛知学院大歯学部の新況報
告と、地元であるから、是非機会を
得て参観にとの御好意があつて、私
迄御招待をと深謝された。

以上のような御挨拶を待ちかねて
いたかのように、終ると直ちに膳が
運ばれ、地元今泉勝氏の特別の配慮
によって、キレイドコロも用意され
ていて、潤滑油?のまわるにつれ
て、座はにぎやかに……。会員から
は、いつ覚えたのか、素人ばなれし
た喉を聞かせるものもあって、各地
の同窓会報告のように、和気あいあ
いの裡に五時半頃宴会は終わった。

青葉若葉の音羽の山をおりて、
三々五々夫々の目的地にと、散会し
た。

尚別掲の写真は当日の記念撮影で
ある。

出席者(来賓)
大井清詞先生御夫妻、近藤三郎先
生、加藤孝一先生
(会 員)

曾田真一、鈴木信義、彦坂 武、
藤城易都、今泉 勝、岡本保和、

静岡県支部

鈴木郁夫、藤城 武、羽田野義彦、
城所定雄、加藤一郎、加藤正敏、
白井 智、伊藤 哲、山本 卓、
辻村博夫、山本弥市、山本保吉、
西村慎祐、菅沼孝夫、尾崎 博、
平野 裕、西村秀祐、岡田門美、
高田敦孟、山本一成、尾崎茂雄
(彦坂記)



は三階四階の素晴らしい景観を眼下に見下す室で定刻午後一時大広間の会場で開会の辞副支部長森田福造君熱弁を以てし次で支部長徳永寅蔵立って挨拶、支部長として本年すでに十四年となり副支部長は勿論幹事長、幹事諸君又会員諸君の協力と支援によって支部運営の充実を得、会費は95%以上の本部納入となり同窓会本部に対して強力なる支援を呈する事の出来た事を深く感謝し本年を以て支部長を勇退する決意を披瀝しました。次で庶務報告及び決算予算の認定を浅井幹事長なし、一同起立して故中井会長に対して又本部逝去会員四名に対し黙禱を捧げて御冥福を祈りました。役員の選挙は全員の賛成を得て、支部長副支部長は推薦により決定となり、詮衡委員を議長指名にて詮衡の結果支部長に浅井寿一君、副支部長に河村孝義君、市川潔君と決定、満場の拍手に迎えられてそれぞれ就任の挨拶あり、幹事は各地区より推薦する事になりました。少憩の後、福島学長の挨拶あり大学及び大学院の近況を詳細に拝承、次で田丸会長代理より同窓会の現状と抱負に就て明解なる御話あり、次の講演は五十嵐義昭君の司会にて松井教授の欧米学会と近代日本医学会に出席してと題して視野の広い有益な興味ある講演を長時間賜り一同感銘深く拝聴致しました。記念撮影の後一風呂あびて懇親の宴となり、熱川美形のサービスに和気あいあい歓沸し隠し芸続出興の尽くるを知らず、前支部長徳永、前副支部長森田、丸山君に長年の労を謝する光榮ある胴

上げに又一段の歓声が湧きました。最後に母校と同窓会の発展を祈り校歌を声高らかに歌って退場、翌朝は有志により松井教授を囲んで臨牀顕談会を開き御教示を頂きました。

当日出席者氏名 (敬称略)

小山彦平、土屋勝雄、丸山実太郎、木村幸人、吉田弘、井川重利、遠藤七郎、甲斐清、小川知二、五十嵐義昭、土屋謙一、神田秀彦、新保政美、亀井正彦、徳永富士雄、徳永寅蔵、浅井寿一、笹本允男、大内正守、山島栄子、大場明徳、松田潔、鈴木秋雄、益子敬四郎、河村三省、児島久勝、河村孝義、朝浪、瀧、朝浪惣一、田村清史、赤堀開吉、名波佐智夫、大沢一康、山口晋作、塚田陸弥、五条万次郎、岡村一夫、榎本要二、森田福造、塩田一、若尾秀夫、荒川安雄、喜田正雄、小原秀夫、山口隆英、市川潔(徳永記)

文京区支部

五月二十三日夜、区内の割烹かねこにて本年度総会並に懇親会を開催した。新緑薫風の候とは名ばかりで前日は三〇度を越える猛暑そして当日は夜半は冷え込むと云った正にクレージーお天気であった。来賓として同窓会長代理堀真一先生それに山内吉雄先生母校の山本義茂先生を初め多数の会員諸先生の御出席を得て盛会であった。定刻より遅れること一時間と云う日本時間で誠に申訳無かったが総会は午後七時三十分飯島幹事の司会に依り開会された。佐久間副支部長の開会の辞に初まり林

支部長の挨拶次で堀、山内、山本三来賓よりそれぞれ興味深い御話を伺った。次に連見副支部長により庶務報告が行われた。本年度は前年に比して事故の多い年であった。当支部準会員であられた中井同窓会長の逝去、更に会員小林由松先生の逝去、会員中川重良、青柳保房両先生の長期療養、会員中村正尾、中村英雄両先生御住居の煩悩、会員河野坦先生令閨の逝去と真に哀悼又は御同情に堪えない次第である。支部として謹んでそれぞれ弔慰或は御見舞を申し上げた。次に議事に入り鈴木重五郎先生を議長に選出し上程各議案の審議を行った。先ず罹災会員の見舞に關する件を可決し次で役員改選の結果任期満了の役員林支部長、佐久間、連見両副支部長、飯島、森、武石、入野(和)の四幹事は離任して新役員は次の通り決定した。支部長 斎藤寛三郎、副支部長中村 毅、荒井賢一、幹事森滋(留任) 斎藤孝夫、津島秀雄、今井芳長の諸先生である。議事を終了し連見副支部長の開会の辞があつて空しく卓上に陳列された御馳走を前にして漸く総会を終り待望の懇親会が開幕された。出席者中での最年長者鹿野八千代先生の音頭により一同健康を祝し合つて乾盃し歓談放談の花が咲き酒盃も程よく傾けられた。酒量もとり最佳ならず、されど同窓同編の集いならではの純粹素朴さとして和やかこそ最上の美酒美餐と云うべきか、談笑はいづ果つとも知れないが閉会の時刻もせまらず午後九時四〇分母校の発展を祈りつつ散会した(林記)

互 発 会

先般予告した互発会関西観光は左記の通り八名の家族を加えて総数三十一名誠に和やかで而も空前の盛会であった。

四月二十七日夜の京都東山閣の宴会では何がして四十三年振りの連中の事で禿頭白髮肥満度軀の種々相やと思ひ出しては破顔大笑劇的シンを展開した。自己紹介では各地の名物男達士に気焰万丈当るべからずダラリの舞子の踊る頃は頗る神妙に陶酔していたが酒のまわる程に談論風発夜のふけるのも知らなかつた。明れば二十八日好天午前九時貸切りバスで出発三十三間堂清水寺智恩院八坂平安の両神社を廻り新緑映ゆる有料ドライブウエを一路比叡山へ廻転展望台より関西一望根本中堂



ク ラ ス 会 便 り

の落慶式を拝み下山後は金閣寺御所二条城両本願寺を廻り午後六時京名物の都踊りを観賞した。さすが人間国宝井上八千代の振付丈に平安朝絵巻の真髓を心ゆく迄満喫して堪能し夜はホテルで再痛飲して一泊、二十九日は奈良や京都市内見物へと自由行動に入り互に健在を祈りつつ散会した。来秋は広島市を中心に秋の宮島錦帯橋あたりに賑やかに展開される事であろう。会員諸君挙って参加される事を期待し至らざりしサービスを深謝しつつ筆を擱く。

杉山開多(三名) 赤堀康興、河野源造、高達、伊藤英一郎、広上梅吉、田中健之助(以上各二名) 大泉豊太郎、多 重守、加藤大次郎、西村植祐、新井守三、和田直樹、吉沢八郎、原田榮三、宇賀武文、橋高八郎、野崎吉郎、宮川仁三郎、尾関正、渡辺 濟、橋本多一郎、松本績(以上各一名) (松本績記)

壬 戌 会

今の度級友石塚保君が三月上旬築地の国立ガッセンターに入院されましたが、昨年御令閨を失した同君の度重なる御不運に誠に御気の毒と存じ、壬戌会在京幹事感傷の余り差出がましい事とは思ひましたが、会員の皆様に御見舞金の募集を致しました処、左記の通り大変御協力を賜り有難く厚く御礼を申し上げます。就きましては我々幹事は、三月十

三日、四月十七日、五月七日の三回に亘り病院を訪ね御見舞し石塚君の御嬢さんに皆様の御見舞金を御渡し致しました。大変本人も喜んで居られたそうです(面会謝絶の為)。五月八日手術を行い(右肺全摘出)現在(九日朝)予後順調との事です。右御報告申し上げ御協力の御礼芳々左記会計報告をなし領収証にかえさせていただきます。

収入 六五〇九〇円 四八名
支出 六五〇九〇円
ハガキ、切手 一三八〇円
印刷、紙、封筒 一一一〇円
見舞金 六二五〇〇円
三月十三日 三〇〇〇円
四月十七日 四〇〇〇円
五月七日 一九五〇〇円

上利貞馬君五〇〇円記載もれにつき収、支共五〇〇円増、他に記載もれの方がありましたら御報らせ願います。(幹事 松元、渡辺、鈴木)

更 始 会

卒業三十六周年総会は千葉県在住会員一同の肝入りで去る五月二十六、七日の両日房総一周を以て開れた。幸に好天に恵れ、両国駅前に集合して大型バスにて出発、車中昔話や近況などを語り合いつつ、小湊や鯛の浦の名所旧蹟を訪ねて鴨川の吉田屋旅館にて総会を開いた。他では味えない魚の生作りや豪華な料理に一同満喫した。翌二十七日は仁衛門島や白浜の海岸を探勝して楽しいコースを千葉駅に出て新装なった、近代的駅ビル食堂で分散会を開いて来年度の総会で再会を約して別れた。

当日の参会者、西山、渡辺、中村利、三浦、同夫人、香川、湯原、梅津、長谷川、斯波、山本、千野、同夫人、似鳥、堀、阿部、畑、柳沼、岡本、曾田、山路、片岡、清宮、浅井夫人、佐藤静、清水、同夫人、明楽、鹿島、森下、山口、同夫人、大月、荻沼、田島、三宅、成毛、丸島、黒田、門屋、浅野好、平山、石川、秋山。(稿記)



三 辰 会

本年度総会は六月十六日(日)、十七日(月)福島県会津若松、東山温泉、新滝旅館に於いて開催することになりました。旅館予約の都合もありましたので、至急御返事を賜わりますようお願い申し上げます。未定の場合には未定の理由も併せ御知らせ下さい。

仁 蜂 会

五月三日午前八時仙台駅前集合して、山形交通のバスで出発。山陰の森戸、秋庭両君を最遠として中京の山田、それに古屋、加藤、佐藤俊、水戸の小鹿と東京勢の山口、愛知、岡、吉井、浅野、小野寺、青木、渡辺、中、石井それに堤と十九会員。うち五人が奥さん、二人がお子さんと同伴で二十六名。松島に直行して瑞巖寺から遊覧船で松島めぐり。一等室は殆ど買切り。階級の言葉を知った。塩釜に上陸して塩釜神社に参詣。いままさら安産でもあるまいにと思いきや、自分のお礼と娘のために。成程成程。昼食後仙台市から蔵王エコーラインに初夏と春との緑と花をみ頂上では雪を踏んで「お釜」を見物、湯の町上の山温泉で一泊。翌日は米沢市から裏磐梯の風光を見て東山温泉に一泊。磐梯山麓の野口記念館に博士を偲ぶ。翌五日是小雨

そはふる鶴ガ城と、白虎隊員のねむる飯盛山へ。舞台装置は絶佳。吾妻スカイラインから霧の霽れ間に見える猪苗代湖に別れ、又快晴の福島駅に下って解散。東京勢はガイドさんと別れがたく、そのバスを駆って八重州口へ直行。いと豪華なクラス旅行であった。三年前の九州旅行のときの課題が一つ解決された。あとは卒業25周年の昭和40年が北海道か、一挙にハワイかという大問題に当面したわけ。諸兄のご意見を幹事までお寄せ下さい。それにしても南に北に、旅行クラスの異名もあるとか。(斎藤利世記)



蔵王山頂の馬の背に立つ面々。お釜と呼ばれる噴火口湖は、残雪に覆われて若い水は見られなかつた。

一 期 会

○昨年十月、「二期会卒業十周年記念総会」を開催致し、楽しい思い出

五 期 会

今年には梅雨に入るのも早いとか。最近毎日ぐづついた日が続いています。五期会便りも大分ぐざざしてました。諸兄姉には、益々御壮健でいられることと推察いたします。さて、もう旧聞に属するかもしれませんが、中村英雄君宅が、去る三月十二日に半分だけですが類焼しました。もっとも残り半分も水をかぶって大変だったようです。会からは吉木、渡辺(正)、成毛が御見舞金(参千円)をもって訪いました。なお、同君の住所は、左記の通りに変更しました。

東京都練馬区大泉学園町五四三
幹事の一人吉木は、国内研修生として東京医科歯科大学歯学部生化学教室に、来年三月末日まで約一年間入室することになりました。

又、田所暢康君は、来る六月十日飯野海運所「康島丸」にて、渡米シカゴのメデイカルセンター、マイケルリーズ病院に勤務されることになりました。なお渡米先の住所は次の通りです。

Dr. N. TADOKORO
Dental Dept. Michael, Reese
Hospital 29th St. & Ellis
Ave, Chicago 16, Illinois
U. S. A

(五期会幹事)

六 喜 会

新緑の候となりました。だいぶ御無沙汰しましたが元氣にお越しのことと思います。

さて、会報第三号の発行が種々な事情によって大変遅れ、皆様からいただいた近況も古くなってしまいましたが、あらためて近況をいただき、それによって発行します。近く連絡しますからなるべく詳細にお知らせ下さい。

本学保存の服部、浅井、稲浜の三君は本年四月、助手より講師に昇任されました。外科の井上長生助手は昨年末、薬理の本津講師は本年三月それぞれ退職し、自宅にて開業しました。また解剖の市川講師は本年三月に退職し、国士館大学の体育解剖の助教授に就任しました。幹事記

十 期 会

第卅三回国試の発表が、つい先日行なわれ、一約年前の今頃が思い出されますが、皆の学窓を立ってから一年後の変換は目まぐるしく、社会人二年生としての活躍も期待されています。昨今、私達のもとへ、数多くの吉報や、御挨拶状が届けられております。それによりますと、既に独身時代を御卒業された方々は左の二十九名になりました。皆に代って、御祝詞申し上げますと同時に、御家庭の幸福と発展をお祈り申し上げます。

高見沢(旧林)、藤居、初鹿、橋本、浜野、梅田、神原、金山、小室、野間、荻沼、清野、鈴木、鳥居、滝杉戸、高江州、谷脇、統、吉田欣、さらに、橋本(旧上矢)野間(旧小池)高梨(旧栗原)、滝(旧倉敷)、沼沢(旧松前)、金山(旧水上)、川崎(旧長野)、小室(旧佐々木)、清野(旧関町)、その他に詳細不明でここに上げることの出来なかった方も二、三ありました。御報告下さるようお願いいたします。

又、第二報を企画しておりますが、用紙が到着次第、近況報告を御寄稿下さい。

現住所変更(敬称略)

林 武夫 5 札幌市北一条西五丁目北一条ビル
高梨 吉郎 35 広島県福山市光南町一六二六 松風荘
電話福山①一六七一
桜井 直男 35 三重県北牟婁郡海山

町引本浦四二〇
田坂 致和 9 山口県萩市御許町九三

山田 勝郎 34 神奈川県秦野市曹屋二七〇七

秋元 信克 37 宮城県加美郡小野田町

寿谷 良雄 2 新宿区下落合一ノ五三五

芳賀 忠夫 20.9 電話(951)九七〇三
板橋区蓮沼町五〇

劉 寿民 16.12 中華人民共和国北京市西城区郵宅醫院

飯塚 勝 4 茨城県日立市幸町二ノ二一〇七

渡辺益太郎 19.9 新潟県五泉市吉沢四丁目電話五泉、四六

山沢美智子 35 新潟県新潟市関屋一八二二の二一歯友会

深沢 亮 37 新宿区柏木五ノ一一三〇田中方

鈴木 滋 31 秋田県能代市大町三

逝去会員

早川啓之助氏 元、四、六 室 蘭
安生 貢氏 元、四、三 栃木県
八田 辰雄氏(7)元、三、八 西三河
永川 義之氏(四)元、四、七 広島県
木内 忠治氏 3元、五、 宮城県

お知らせ

鈴木忠夫(元本学進学課程事務員)
右の者は、昭和三十八年五月三十一日限り本学を退職し、現在本学と無関係につき御承知願います。
六月一日 東京歯科大学

図書館だより



第二十二号

寄贈図書御礼その(昭和三十七年度)左記の同窓各位他より図書の御寄贈を賜りました。謹んで御芳名を掲げて厚く感謝の意を表します。
学校法人 東京歯科大学
東京歯科大学図書館

Thoma, Kurt H. Oral Pathology. 他

新刊歯医学洋書 計七十三冊

東京都港区芝 アメリカ文化センター ドロシイ スポットフォード女史殿

Weisz: The science of Biology. 他

新刊歯医学洋書 計十四冊(故訓令室殿香典返しとして)

学内 米沢和一殿

中央経済社 会計全書他 計十二冊

東京都千代田区 田村博貞殿(故田村一吉先生香典返しとして)

Hess: Lehrbuch der konservierende Zahnheilkunde. 他

新刊歯学洋書 計十二冊

東京都中野区 西村あき殿(故西村豊治先生香典返しとして)

National Library of medicine (ed): Index medicus 一カ年分

在米ニューヨーク、上原進殿

日本医学図書館協会編 医学雑誌(和)雑誌総合目録 他二冊

大阪 志村清殿(故志村起殿香典返しとして)

上条雅彦著 日本人永久歯の解剖学三冊 学内 著者殿

福沢諭吉全集(全巻) 東京都港区芝 慶応義塾大学殿

パーキンソンの成功法則 一冊 学内 福島秀策殿

杉山不二、森本優著 歯科診療補助 学内 杉山不二殿

王 編 無冤録上下(寛政二年刊) 学内 大井清殿

浅野豊著 歌集 げんげん田 一冊 千葉県著者殿(大正四四年卒)

斎藤利世著 句集 永結 山形市十日町 著者殿

新刊歯医学書一般 計一三〇冊 専門課程 同七十六冊 進学課程

東京歯科大学父兄会殿

高山紀清 歯の養生(明一六) 一冊 東京都 玉沢孝殿

小田小石著 句文集 多々良 福岡市 著者殿(大正十三年卒)

その外多数の方々より拝受いたしました紙面の都合により直接御礼状をもって代えさせていただきます。